

いなかおか V



2001 No.141

東京都世田谷区歯科医師会会報



東南アジア旅行の知的楽しみ方

「インド化」された国々へ 遺跡の旅—XIII

下馬部会 齋藤 賢一

今回はタイの仏教寺院を訪れます。以前にお話しした東北タイの寺院はカンボジアのアンコール王朝が9世紀から13世紀にかけて建てたヒンドゥー教の寺院です。現在のタイの国にはミャンマーの旅でお話ししましたモン族が住んでいました。中部にはインド化された王国ドヴァーラヴァティーが6世紀から11世紀まで興りました。北部では6世紀から13世紀頃までランブーン地方にハリブーンチャイ王国を築きました。これらモン族の国は主に上座部仏教を主流としていましたが、ヒンドゥー教も交えていたようです。9世紀になるとアンコール帝国が栄え、現在のタイの大部分を領土にしました。タイ族のもともとの居住地は中国の南部にあり、7、8世紀頃から南下して徐々に力を蓄えておりました。強大なアンコール帝国も13世紀には衰退に向かい、タイ族はスコータイに1240年代に王国を建設しました。同じ頃北部では小さな国々をつくっていたタイ族は1291年にハリブーンチャイ王国を征服しラン・ナ・タイ王国を創始してチェンマイに都をおきました。スコータイ王国は約200年続きましたが、同じタイ族のアユタヤ王国に併合されます。ラン・ナ・タイ王国も260年続きましたが1556年ビルマに侵略され、18世紀までビルマの支配下にありました。アユタヤ王国はタイ全土を統一して東南アジアの大国になりましたが、1569年にはビルマによって滅ぼされてしまいます。これからこのタイ族が造った仏教遺跡を見学したいと思います。

まずは熱いバンコクから飛行機で北へ700Kmのチェンマイに行くことにします。チェンマイはタイ北部の標高300mにあるので、とても涼しく朝夕は上着が必要なほどです。周囲を山々に囲まれた落ちついた町で、色々な山岳民族を訪ねるトレッキングツアーも盛んで

す。現在のチェンマイは城壁に囲まれた旧市街とその周囲に広がる新市街に分かれています。始めにラン・ナ・タイ王国を創始したマンライ王が1297年創建したワット・チェンマンを見学します。象をめぐるせた基壇の上にスリランカ様式の塔をのせていますがこれは後世の建築とされています。ワット・ブラシンは1345年に建立されスリランカ様式のチェディ（仏塔—ストゥーパのことをタイではチェディと呼ぶ）と経蔵があり、経蔵の外壁には繊細優美な女神像が彫刻されています（写—1）。ワット



写—1「経蔵の彫刻 ワット・ブラシン」チェンマイト・チェディ・ルアンは当時90mはあったというチェディが半分崩壊したまま残されています。ワット・チェット・ヨートは1455年に建立され屋根に7基の尖塔があり、外壁には見事なスタッコ彫刻がみられます（写—2）。タイの寺院で彫刻が残っているところは少ないのでワット・ブラシンとワット・チェット・ヨートは必見です。チェンマイの夜はなんととってもナイトバザールです。6時頃から中心のチャン・クラン通りの歩道や広場が露店で埋め尽くされます。日常品から民芸品、特に山岳民族の



写-2「彫刻 ワット・チェット・ヨート」チェンマイ人々が出している露店に面白いものが沢山あります。広場では大きな屋外食堂がひしめき合い、地元の家族連れでにぎわっています。注文は隣の家族が食べている物を指さしてたのめば間違いなく美味しい物を食べられます。

次にチェンマイから南へ26Kmの所にランプーンの町があります。モン族のパリブンチャイ王国の首都でここにワット・プラ・ハリブンチャイとワット・ククット寺院があります(写-3)。



写-3「ワット・プラ・ハリブンチャイ」ランプーン両寺院ともタイのチェディと違って四角い段台ピラミッドの形で各四面に龕がもうけられ、仏像が安置されています。

さらに南下しタイで最も魅力的な仏教寺院群のあるスコタイへ行きます。車で4時間かか

りますがタイの幹線道路は広く快適ですので移動はあまり苦になりません。スコタイ王朝は三代目のラーマ・カムヘン王の時に最大となり北はラオスのルアンブラバン、東はヴィエンチャン、南はマライ半島、西はビルマのベグーあたりまで支配力を伸ばたとされます。ラーマ・カムヘン王はクメール文字をベースにタイ文字を作り、セイロンから上座部仏教(テラワダ)を取り入れ、また中国から陶芸を学んで日本でも江戸時代に流行した、スワンカローク焼(寸胡録-すんころく)を生み出しました。ラーマ・カムヘン王の統治下では食べ物は豊富で、人民は家畜や商品を自由に売買し、不和があれば王自身が公平に裁きを行うなど理想的な国家であったと言われます。王国はスコタイを首都とし、北方65Kmのヨム河の右岸にシー・サチャナーライ、南に80Kmのピン河の両岸にまたがるカンベンベットにそれぞれ北と南に備える副都城を築きました。この3カ所に仏教遺跡が残っています。スコタイの遺跡は現在の町から12Kmほど離れた水田地帯の中にあります。この遺跡群全体が遺跡公園になっており、城壁に囲まれた内部はとても良く整備されています。遺跡は城壁内部に36カ所、城壁外部に90カ所確認されています。まずは内部から見学します。ワット・マハータートは濠で囲まれたスコタイの中心寺院で200m四方の境内には多数の建造物と聖池が点在しており朝訪れると、濠や池に睡蓮が咲き乱れとても綺麗です。中央にはスコタイ独特の蓮の蕾を上のにのせたようなチェディがあり、同じ基壇の上に9つの塔が乗っています(写-4)。



写-4「ワット・マハータート」スコタイ

基壇や破風には繊細な彫刻が残っています。その前方には石の柱が並んだポートという建物がありますが、屋根はなくなっており、本尊の仏像が雨ざらしになって微笑んでおります。そのほか境内にはタイ独特のモンドップという大きな立仏像を納めた建物があります。次にアンコール帝国時代の塔が残っているワット・ブラバイ・ルアン、ワット・シー・サワイを見学します(写-5)。共にジャヤヴァルマン7世時代



写-5 「ワット・シー・サワイ」 スコータイ

の建立ですがスコータイ王朝になって上座部の仏教寺院に作りなおされました。ワット・シー・チュムは分厚い壁で囲まれた巨大な座仏が印象的な寺院でこの仏像はスコータイ仏像の特徴を良く表しています(写-6)。頭の上には



写-6 「ワット・シー・チュム」 スコータイ

火炎状の長い物(ラッサミー)がのっており、これは放射される光を表しています。顔は卵形で眉は綺麗な曲線をなし、微笑みをうかべてい

ます。城壁の外にはワット・トラバン・トン・ランがありその壁面に刻まれた浮き彫りは素晴らしい出来でしたが現在は崩壊がかなり進んでいます。この浮き彫りはブッダが天で母に説法した後、地上に降りてこられる場面で、頭はかかっています。ブッダが歩いている姿で表され、左に帝釈天、右に梵天を従えています。ワット・サバン・ヒンは西側の丘の上にあり大きな立仏像がスコータイを見おろしています(写-7)。



写-7 「ワット・サバン・ヒン」 スコータイ

次にスコータイの北にあるシー・サチャナーライの遺跡群に行きます。ここも遺跡公園になっており良く整備されています。39頭の象の基壇があるスリランカ様式のワット・チャン・ロム、7種類のチェディがあるワット・チェディ・テウ(写-8)、繊細優美な花葉文の浮き



写-8 「ワット・チェディ・テウ」 シー・サチャナーライ

彫りが見られるワット・ナンパヤ(写-9)などを見学して、ここから少し離れたヨム河がヘアピンカーブのように蛇行したところにあるワット・マハータート・チャリエンへ行きます。ここはアンコール帝国の重要な地域であったためクメール寺院が建立されておりましたが、それを仏教寺院に整備しました。浮き彫りの遊行



写-9 「花葉文の彫刻 ワット・ナンパヤ」シー・サチャナーライ



写-10 「遊行仏 ワット・マハーアート・チャリエン」シー・サチャナーライ



写-11 「4面仏 ワット・マハーアート・チャリエン」シー・サチャナーライ

仏が有名です(写-10)。遊行仏とはスコタイで造られたタイ独特の仏像で普通、仏像は立仏、座仏、寝仏の形で造られますが遊行仏はブツダの歩いている姿を彫った物です。ここで面白いものを見つけました。それは入口の門の上部彫刻で、アンコールのバイヨン寺院の4面像と同じように4面に人面が彫刻されていました(写-11)。

カンベンベットはスコタイの南にあり、ピン河に沿った城壁の内部と城壁の北西部の2カ所に遺跡があり、ここも歴史公園になっております。全体に傷みが激しく瓦礫の山になっているものも少なくありません。ワット・ブラケオは象の基壇の上にスリランカ様式のチェディをのせており、背後には9mほどの涅槃物と2体の座仏があります(写-12)。ワット・プラ・



写-12 「涅槃仏 ワット・プラ・ケオ」カンベンベット

シー・イリヤボットはモンドップが残っており9mの立仏像があります。ワット・チャン・ロブは68頭の象の基壇が残っており、中には保存状態がよい象もあり、表面の彫刻も綺麗です。スコタイでは是非食べてもらいたい物はスコタイダックです。アヒルにたっぷり蜂蜜をぬりローストしたもので絶品です。麺類も美味しく種類も豊富ですが、特にお勧めはトマトだけがのっているラーメンです。とてもあっさりしていてトマトの酸味が何ともいえません。

更に南下しアユタヤへ行きましょう。アユタヤは1351年ラーマ・ティボディー1世が開いた王国の首都で1769年ビルマ軍の侵攻まで400年続きました。チェンマイもスコタイも河を中心に作られていますが、アユタヤはチャオブラヤ河を中心にその支流であるパサク河、

オールドロプリー河に四方を完全に囲まれた河の町です。ほとんどの観光客はいたしません。アユタヤの町をボートで一周すると人々の生活が裏から見えたり、寺院の立地条件などが良く分かります。さすがにワニはいませんが2m近いトカゲが見られるかもしれません。アユタヤを代表する寺院はワット・スリ・サンベットです(写-13)。ここは初代王の王宮の一部



写-13「ワット・スリ・サンベット」アユタヤ

で、ここにスリランカ様式の仏塔が3つ並んで建っています。中心寺院のワット・マハータートも大きな寺院でスリランカ風、クメール風の仏塔が建っています。有名な樹の根っこに埋まってしまった仏頭が境内にあります(写-14)。



写-14「仏頭 ワット・マハータート」アユタヤ

そのほか29mの涅槃仏が野ざらしになっているワット・ロカヤスタ、ブラサート・トーン王がクメール帝国を破った戦勝記念に建てたクメール風寺院のワット・チャイ・ワッタナラーム(写-15)、80mの仏塔ワット・プー・カオ・



写-15「ワット・チャイ・ワッタナラーム」アユタヤ

トーン、ナレースワン王がビルマ軍を打ち破った戦勝記念に建てられた60mのスリランカ様式の仏塔ワット・チャイ・モンコンなどがあります。ほとんどの観光客は日帰りですが、最低1泊はしてゆっくり見学しましょう。夕食はぜひ水上レストランにいきましょう。目的はもちろんトムヤムクンです。アユタヤのトムヤムクンは河エビを使い、水の代わりにココナツミルクを使う本物です。そしてあの小さな唐辛子ブリック(ネズミの糞と言われている)がごっそり入っている本物です。体中から吹き出した汗が河からふいてくる心地よい風に包まれたら、それはもう至福のひとつです。